

來る事を話してやる。粉は小さいものであるから蟲眼鏡があつたら一そうよいであらう。松茸に限らず椎茸、しょうろその他庭に生える茸類を口へされ入れねば恐ろしいものは少い。折にふれてみせ、これも草や木のような生きてゐるものである事を知らしめ度い。

## 第七週

菊、コスモス

秋は菊、菊は秋、で今迄に菊科植物は數種出て來たかも知れないが秋こそ菊の觀察シーズンである。一般に菊もしてよりもコスモスさいふ様な一つから、種類をあげて觀察

### 手 技

## 第四週

自由畫 二回

四つ切大の白の構造紙、或はうす色の包紙の廢物なごを利用してもよいが、それに毛筆で自由畫をかゝせる。始

させ度い。春に蒔いたコスモスが今は花盛りである。朝こぎも達こその枝を花瓶にさす爲取り乍ら、又花瓶に生け乍ら花の觀察をさせる。少し散りさうになつた花をこつて花瓣一枚のやうなのをぬき小さな花になつてゐる事をみせる。小さな花が一ぱい集つてゐる事をみせる。大きな花瓣がいくつあるかを數へさせる、これはいくつ、それはいくつ、こ數へ乍ら數の比較をさせる。そしてコスモスはこの菊の親類、こ言つて他の菊の花も同様に觀察させる。菊の花のよい香もこゝで忘れず嗅がう。そして菊の花はどれもきれいで香がよくていゝ花で皇室の御紋にもなつてゐる事も話してよいこゝであらうと思ふ。

めて筆をもつ幼兒たちのためには、穂先のこがつたものよりも、少し書き切れのしてゐるものゝ方が使ひよい。そして腰の強い筆がよいので水彩繪具筆や、大人の使ひふるしの筆でよいので、紙も筆も廢物で充分であつて、

毛筆で書く繪の面白さを充分に味ふ事も出来、又一方その畫きゆく途中の幼児の精神的の訓練にもなる事である。たゞ墨をすつてやつたり、筆の數なき制限のある事であるから、一三人交代にして、他の幼児はその外の遊びをしてゐるやうな方法でこの毛筆畫をかゝせたいものである。

製作 おもちや屋

年少組第二回目の誘導保育案である

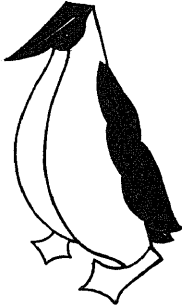
鳥のおもちや 二回

ペンギン鳥、ベリカン、なぎ形の面白いもの、或はヒョコ、ハトなぎミよく幼児に親しみのある鳥なぎの簡単なものなるべく立體的につくつて、車で引く様にするか立たせるやうにつくる。その一例としてペンギン鳥のせておく

## 第五週

自由畫 二回

この週も毛筆でかかせる事をつゞけ



る。同じ自由畫でも二三人は毛筆でお部屋の片隅に靜かに畫く様にし、他の大勢は一かたまり、或は數團まなりてクレヨン畫をかくのでもよい。

粘土、自在 一回

製作 おもちややつゞき 三回

魚つりおもちや

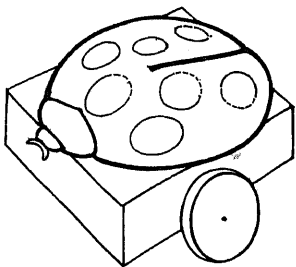
第一期のお魚の小さいのをつくり、空箱の内部を水色なごの模造紙ではり、その内にお魚を入れてヒゴのさきにつり針をつけたのをそへておく。

日の丸の國旗

白の模造紙或は半紙を臺紙にして、赤の模造紙を丸くきりぬきはりつける。竹のごく細いものを竿にする。

てんとう蟲

てんとう蟲の形を畫用紙に形ざりその羽の模様、(斑點の數)地



色の赤黒は幼児のこのみにして、クレヨンで畫かせる。

これを一センチ半位の浅い箱にのせて兩方へ二つの車をつけて前に絲をつけてひく様にする。

## 第六週

自由畫 一回

松茸の出る時節であるから出来だけ實物を見せたり傘のひらいたものや、まだひらかないものなごこりませて用意して、これを見ながらかゝせる。

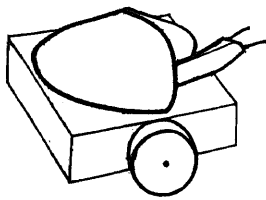
粘土 一回

自由畫のまきによく觀察が出来てゐる筈であるから容易に出来る。乾けば茶色の泥繪具でぬる。

製作 おもちややつゞき

人形 花子さん

人形の形をボール紙を心にして少しかたくつくる。大體の形はつくつて眼鼻などは幼児にかゝせてもよい。畫用紙に模様をかいて洋服や着物をつくつたり、



千代紙でつくつたりする。

でんく 蟲車

でんく 蟲同様にでんく 蟲を畫きそれに觸角なごつけ、箱の浅いものゝ上にのせて兩方に車をつけてひく様にする。

## 第七週

自由畫 一回

毛筆にて畫くこみをつゞけるだんくくに毛筆畫が出来てくるからお部屋にはつて觀賞する。

ぬりゑ 一回

ハツカダイコン、これはその名の通り早く出来るから幼稚園に植ゑておくこよい。實物を見ながらぬり、あまは おまゝここの材料として遊べる。

製作 おもちややつゞき 一回

首かざり

麥わらに花、蝶なごの型をつなぎ合せて首かざりにしてもよいし、又輪つなぎ、じゆず玉、梧桐の實なごをつなぎ合せて首かざりにしてもよい。

こま

年少組のごく始めの材料として説明してあるのではよく

## 第八週

自由畫 一回

魚の繪をかくために出来るだけ魚の繪をあつめて幼児にみせる。この日はみるだけでもよい。

## 鉄仕事

この時期にはコスモスは切り花としてお部屋のかざり、或は庭にもあることなればよく幼児の眼にふれてゐるがあらためて花數輪を花瓶なごにさしてみながら鉄をきらせるまよい。この頃には糊も幼児自身につけさせてはらせる。

粘土 一回

お魚

この週のはじめに魚の繪の觀賞あり幼児の魚に對する大體の觀察も出來てゐるのであるからごく簡單なものあまり大きくないものをつくる。大なものとはこはれやすい。乾かして繪具をぬる。

ぬりゑ 一回

飛行機

製作 おもちやつつき

ピエロ人形

畫用紙で直径二センチ位の圓の顔にする。これに組紙なごのあつき色がみにて手足をつけ、帽子をかぶせる。

